

令和5年度 第6学年 授業改善推進プラン

台東区立蔵前小学校

1 児童の状況及び実態

算数	<p>全国学力調査結果から、平均正答率は東京都と同じ結果である。図形の領域に関して、それぞれの図形の意味や性質は理解ができていない。しかし応用問題で基礎的な知識を活用できず、つまづく傾向が見られる。四則混合の計算はできるものの、問題が意図する各段階の求め方や答えの理解が不十分である。また無回答率も高く問題の意味の理解ができていない。</p> <p>1学期の実態から、問題の表記の仕方が変わるとつまづく傾向が見られる。基礎的な問題の理解は概ねできている。</p>
理科	<p>台東区学力調査から、基礎・活用ともに目標値を下回った。内容としては「植物の花のつくりと実」「流れる水のはたらき」「物のとけ方」「ふりこのきまり」が顕著であった。観点別では主体的に学習に取り組む態度は大きく上回っているが、知識・技能の定着が不十分な傾向であった。このことから、学習には興味・関心をもって取り組んでいるが、実験や観察を通して得られた結果がどのような事象と結びつくか関連付けて考えられていない。</p> <p>1学期の実態から、意欲的に学習に取り組む児童は多い。しかし科学的な事象と関連付けながら学習することに課題がある。</p>

2 各教科の具体的な授業改善

	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	<p>○知識及び技能 ・基礎、基本を定着させる力</p> <p>○思考力・判断力・表現力等 ・問題解決の方法を多面的・多角的に解決する力</p> <p>○学びに向かう力、人間性等 ・よりよい表現方法を考え、主体的に問題に取り組もうとする態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・反復学習を大切にし、授業の初めやまとめ、さわやかタイムで基礎学習を定着させる時間を確保する。 ・問題表記の型などを示し問題の理解を図る。 ・途中式などの記述を徹底させ理解の向上を図る。 ・自分の考えを記述する時間の確保を十分に行う。 ・児童同士の考えを交流したり、見合ったりする場を設け、多面的な見方や考え方を養う。 ・学習内容が日常生活で生かされる場面を紹介し意欲の向上を図る。 ・自分の考えを図や数直線、文章などで分かりやすく表現し友達に伝える機会を設ける。
理科	<p>○知識及び技能 ・観察や実験を通して得られた知識・技能を定着させる力</p> <p>○思考力・判断力・表現力等 ・事象を多面的・多角的に捉える力</p> <p>○学びに向かう力、人間性等 ・主体的に問題解決をしようとする態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用語の意味や事象の様子を、用語を適切に使いながらノートにまとめるよう指導する。 ・既習事項と新たな事象の関連付けを行うことで知識の定着を図る。 ・単元のまとめにプリント学習を行い定着を図る。 ・条件制御の意味や理由を考え、そこから得られる結果から考察し考えをまとめる時間を確保する。 ・児童同士の交流の機会を設けことで、多面的・多角的な見方や考え方を養う。 ・ICT機器を積極的に活用し結果を可視化できるようにして学習意欲を高める。 ・単元の導入を工夫し、児童が主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・事象が実生活と関連があることを指導する。